

変質する日米合同演習

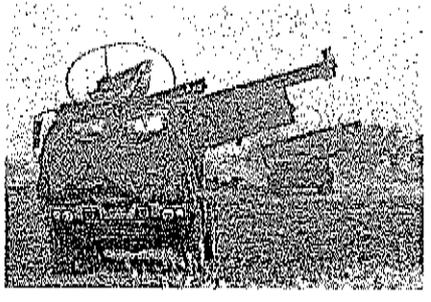
1面のつづき

間演習だと位置づけました。

10月14日に北海道内の演習場・自衛隊基地などで行われた米海兵隊と陸上自衛隊の合同演習「レンリユート・ドラゴン22」(RD22)は米海兵隊と海軍が、東シナ海・南シナ海に進出し対中国を想定して計画する「遠征前進基地作戦」(EAOB)を日米一体で実行する本格的な演習となりました。

米比演習も実施

米海兵隊は、RD22と同時にフィリピンで陸軍や海軍も参加した米比合同演習を実施。日本列島から東シナ海・南シナ海までを囲む中国の防衛ライン「第一列島線」全体での主要な同盟国との二つの大規模な演習



レンリユート・ドラゴン22に参加した米海兵隊HMMARS(左)と陸軍MARS(右)は10月4日、矢野別演習場

米アジア戦略に日本動員

空中強襲で離島攻撃・奪取し、海上・航空阻止作戦を担います。インド太平洋地域にはハワイに1個、沖縄2個の計3個を編成します。

第12海兵隊司令官のジョンサン・シムス大佐は、RD22について第一列島線内で「自衛隊の同志が、あらゆる侵略行為や現状変更の企てを打ち破ることを支援する」(10月17日付、米海軍ニュース)と述べました。

兵站支援を強化

陸上に配置する海兵隊の高機動ロケット砲システム(HIMARS)ハイマースとともに海上からのトマホークミサイルで長距離火力攻撃を担う第15駆逐艦隊(神奈川・横須賀基地)のイーツス駆逐艦ベンフォールドが参加。三沢基地(青森県)には、岩国基地(山口県)のF35B戦闘機が展開しました。



第15駆逐艦隊司令官のウォルター・メイナード大佐は「協力国・同盟国との既存の協力関係を土台に相互運用性を強化し、インド太平洋地域の安全という共通の目標を体現する訓練の継続は不可欠だ」と述べました。訓練港を海兵隊車両を積んで航行する改型型海軍平甲板は、は運搬システム艦10月5日、北海道釧路市(写真は米国防務省映像情報部提供)サビースDVIDSから

た。(同ニュース) 今回の演習では海上からの兵站(へいたん)支援体制が大幅に強化されました。釧路港には、米海軍補給艦サカガウィアと洋上で車両や兵器などを保管し即応態勢をとる事前集積艦タールが展開しました。サカガウィアからは、海兵隊のCH53E大型ヘリが演習場へ弾薬などを空輸。タールは搭載してきた浮き橋として使える改良型海軍平底はしけ運搬システム艦で車両を輸送しました。海兵隊オスプレイや対地攻撃訓練をした攻撃ヘリに、矢野別演習場内に設置した前方武器庫で燃料・給油地点での給油なども行われました。

日本を戦場にする 大演習は許せない

日本平和委員会 千坂純 事務局長 米軍が自衛隊の支援を受けて南西諸島などの島々を攻撃の拠点にし、中国の艦船や航空機を攻撃する「こうした想定の日米軍事演習が、公然と、大規模に、より実戦的になり広げられる事態が生まれていきます。

それは、アメリカの戦争のために日本を戦場にする作戦であり、断じて許せません。岸田政権が年末までに策定しようとしている「敵基地攻撃能力保有」の大軍拡路線と一体です。トマホークミサイルの購入や高速滑空弾の射程1000キロ以上への延伸さえ検討されています。米軍と共に自衛隊が他国を先制攻撃する「この道」を許さないために、26、27日の日本平和大会(オンライン)に向けて平和大会学習パンフでの学習運動を広げ、全国各地で平和大会視聴会を開き、大軍拡路線反対の大運動をつくり出していきたい。